

J. S. Bach Messe in h-Moll BWV 232

Aufführung in japanischer Sprache

創立 50 周年記念 [1]

Bach-Chor Tokyo 50. Jubiläumskonzert [1]

東京バッハ合唱団

第 106 回定期演奏会

106. Regulärkonzert

口短調ミサ曲

J.
S.
バ
ッ
ハ

日本語演奏
初演

2011 年 12 月 3 日 (土) 14:00 開演

Samstag, 3. Dezember 2011, 14 Uhr

杉並公会堂

Suginami Koukaidou Hall

光野孝子 (Sopran) MITSUNO Takako 佐々木まり子 (Alt) SASAKI Mariko 鏡 貴之 (Tenor) KAGAMI Takayuki 新見準平 (Baß) NIIMI Junpei
大村恵美子 (指揮/訳詞 Leitung/Übersetzung) OHMURA Emiko
草間美也子 (Orgel) KUSAMA Miyako 東京カンタータ室内管弦楽団 (Orchester) TOKYO CANTATA CHAMBER ORCHESTRA

[入場料] 前売 3500 円, 当日 4000 円 (全席自由席) Eintrittspreis: ¥3500 Vorverkauf, ¥4000 Tageskarte

[チケット取扱い/問合せ] 東京バッハ合唱団 Tel: 03-3290-5731, Fax: 03-3290-5732, Email: bachchortokyo@aol.com [Bach-Chor Tokyo]



光野孝子(ソプラノ)

島根大学教育学部特別音楽課程卒業。二期会オペラスタジオ・マスタークラス修了(優秀賞受賞)。第5回藤沢オペラコンクール入選。1997年文化庁芸術インターンシップ研修員。

オペラでの多彩な活動に加え、宗教曲においては、バッハの多数の教会カンタータのほか「マタイ受難曲」「クリスマス・オラトリオ」「ロ短調ミサ曲」などで、またモーツァルト「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」など多くの作品でソリストを務めている。

2006年ライブツィヒ・バッハフェスティバルにて、樋口隆一氏指揮の明治学院バッハアカデミー合唱団とともにカンタータ音楽礼拝(ニコライ教会)にソリストとして出演、好評を博す。1997年と2009年には東京バッハ合唱団ドイツ公演にソリストとして同行、教会カンタータ・宗教歌曲などを独唱している。現在、国立国会図書館うたう会、霞ヶ関男声合唱団の指揮者、東京バッハ合唱団、明治学院バッハアカデミーなどのヴォイストレーナーも務めている。二期会会員。



佐々木まり子(アルト)

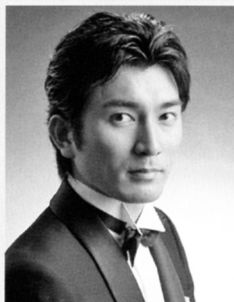
東京芸術大学音楽科卒業、同大学院修士課程独唱科修了。伊藤亘行、森明彦の各氏に師事。学部在学中より小林道夫氏指導のもと、芸大バッハカンタータクラブで多くのオラトリオやカンタータのアルトソロを受け持つ。1980年デットモルト北西ドイツ音楽大学に留学し、ヘルムート・クレッチマー氏に師事。その間、北ドイツにおいてバッハを中心とした宗教音楽演奏会に数多く出演。帰国後もヴィンシャーマン指揮の「クリスマス・オラトリオ」をはじめ、バッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「ロ短調ミサ曲」や多数の教会カンタータ、ヘンデル「メサイア」「エジプトのイスラエル人」、メンデルスゾーン「エリア」「パウロ」などオラトリオ作品のソリストとして各地で演奏活動を行っている。1993年ヴィンシャーマン指揮ドイツ・バッハソリスト連の「マタイ受難曲」ではソリストとして国内各地に同行した。

現在岩手大学、東北大学各合唱団ヴォイストレーナー。女声合唱団グレイセスもりおか、アンサンブル・コンフォーコ指揮者。

鏡 貴之(テノール)

岩手大学教育学部芸術文化課程音楽コース卒業。東京芸術大学大学院修士課程独唱専攻修了。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、多田羅迪夫の各氏に師事。

主にオラトリオ、宗教曲のソリストとして活動中。J.S.バッハの作品では多数のソロを務め、活動の中心になっている。2007年東京バッハ合唱団第100回定期演奏会「マタイ受難曲」公演ではエヴァンゲリストとして好評を博した。他にはモーツァルト、ドヴォルザークの各「レクイエム」、シューベルト「ミサ曲第6番」、ベートーヴェン「第九」、ブルックナー「テ・デウム」ミサ曲第3番などに出演。オペラの分野では、芸大モーニングコンサートでモーツァルト「魔笛」のタミーノ役を務め好評を博す。これまでにH・ヴィンシャーマン、H-M・シュナイト、鈴木雅明、W・マウラーなどの著名な指揮者と共演して高い評価を得ている。日本声楽発声学会会員。東京バッハ合唱団、東京ムジッククライス合唱団各ヴォイストレーナー、バッハコレギウムジャパン声楽メンバー。



新見準平(バリトン)

1985年福岡県出身。東京芸術大学音楽学部音楽科、同大学院音楽研究科修士課程独唱専攻修了。福島明也、多田羅迪夫、原田茂生、宮本修の各氏に師事。2009年労音主催「第九」にて楽壇デビュー。バッハからオルフに至る多くの宗教作品でソリストを務め、オペラでは「魔笛」パパゲーノなどのコミカルな役柄、「アリオダンテ」スコットランド国王のシリアルな役柄など、様々なバリトンの諸役を演じている。これまでに鈴木雅明、現田茂夫、松尾葉子、H-M・シュナイト等、東京ニューシティ管弦楽団、東京ユニバーサルフィル、芸大フィルハーモニア等と共演。バラエティー番組への出演、吹奏楽との共演、能とのコラボレーションなどで活動の幅を広げている。東京ムジッククライス、オルフ祝祭合唱団、館林第九合唱団、中央区第九の会などの合唱指揮者としても活動。芸大バッハカンタータクラブ、バッハコレギウムジャパン声楽メンバー、芸大音楽研究所センター教育研究助手、洗足学園音楽大学補助演奏員。http://ameblo.jp/baritone-an-die-musik



《ロ短調ミサ曲》なぜ日本語か？

東京バッハ合唱団は、半世紀にわたり、わが国におけるバッハ演奏と研究のパイオニアとして、教会カンタータを中心に多様なジャンルのバッハ合唱曲を紹介しつづけていますが、定期公演においては、創立以来、われわれの母語である“日本語”による上演を原則としてきました。

なぜ日本語か？ それは私たちが日本語で考え、思い、感じているからです。ことばの壁は、心のもっとも奥深いところでなされる芸術的共感を阻みますが、訳詞演奏は、精神そのものである母語によってその壁を超えてみようとする一つの試みにほかなりません。

バッハ音楽の精神的背景には、母語をとおして神と直接向き合おうとするルターの思想が色濃く反映されています。またバッハにいたって西洋音楽は、個々のテキストの意味を形象化し、あるいはテキストの背後の理念や情感に音の形を与えることにより、ラテン語やドイツ語といった特定の言語の制約を超越することに成功しました。ですからバッハ音楽の中にあつては、どの言語圏の人々も、安心して自分たちの母語に身をゆだねることができるのです。このたびの《ロ短調ミサ曲》日本語演奏・初演が、バッハ音楽の普遍性の証しとなることを確信しています。

東京バッハ合唱団 創立50周年記念「バッハ4大合唱作品[日本語]連続演奏」

団員募集

●2011-2012 シーズン…《ロ短調ミサ曲》(2011/12/3 当公演)

●2012-2013 シーズン…《クリスマス・オラトリオ》I-III, カンタータ第71番《主はわが君》(2012/12); 《マタイ受難曲》(2013/春)

●2013-2014 シーズン…《クリスマス・オラトリオ》IV-VI, カンタータ第76番《主の栄光を天は語り》(2013/12); 《ヨハネ受難曲》(2014/春)

＜練習日/会場＞

月曜日 18:30-20:30, 目白聖公会(新宿区下落合3-19-4, JR山手線「目白」駅下車5分)

土曜日 15:30-17:30, 世田谷中央教会(世田谷区桜新町1-14-22, 東急田園都市線「桜新町」駅下車4分)

【チケット申込み/お問い合わせ/資料請求】

東京バッハ合唱団

Tel:03-3290-5731 Fax:03-3290-5732

E-mail:bachchortokyo@aol.com

http://www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

■杉並公会堂への交通

JR中央線/東京メトロ丸の内線
荻窪駅北口から
青梅街道に沿って徒歩7分

[会場]Tel:03-3220-0401

